

# 実施状況の評価について

- 公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率は維持している。
- 公共交通利用者数や公共交通機関を利用する市民の割合は、コロナ前の令和元年度実績と比較すると減少しているものの、回復傾向にある。
- 交通事業者の収支率は、コロナ前の令和元年度実績と比較すると公共交通利用者数の減少や燃料費、物価高騰等により悪化しているものの、回復傾向にある。
- 利用者1人あたりの公共交通への公的資金（コロナや設備投資を除く運行に関する補助額）については、コロナ禍の運行収支に基づく補助額増加に伴う増加となる。
- 今後も、公共交通利用者の回復に向け、利用者増加に繋げるための様々な取組（機能強化策、利用促進策）を展開していく必要がある。

数値目標	基準値 (計画策定当初)	基準値 (計画中間年度)	R5年度 (参考値)	R6年度	目標値
公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率の維持					
<b>数値目標 1</b> 公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率 <small>※アクセス可能地域内人口/熊本市域人口</small>	83.9% (H27年度)	85.6% (R2年度)	85.6% (R5年度)	85.8% (R6年度)	85.6% (R7年度)
公共交通利用者数の増加					
<b>数値目標 2</b> 公共交通機関の年間利用者数 <small>※各公共交通機関の利用者数の合計値 ※目標値には新たなコミュニティ交通を含む</small>	55,436千人 (H26年度実績)	53,216千人 (R元年度実績)	45,608千人 (R4年度実績)	50,950千人 (R5年度実績)	56,000千人 (R6年度実績)
公共交通機関を利用する市民の割合の増加					
<b>数値目標 3</b> 目的地に行くときに公共交通機関を利用する市民の割合 <small>※毎年度実施する市民アンケートの調査の結果。 ※週に1回以上利用、または月に1回以上利用と回答した人の割合</small>	47.5% (H27年度)	31.3% (R2年度) ※R3.1/5~2/5	34.8% (R5年度) ※R5.12/6~12/20	33.4% (R6年度) ※R7.1/20~2.7 (速報値)	50.0% (R7年度)
公共交通の収支率の向上					
<b>数値目標 4-1</b> 公的資金が投入されている公共交通の収支率（バス） <small>※バス事業者（5社）の収入額/支出額</small>	-	63.9% (R2年度) (R元年度実績)	56.8% (R5年度) (R4年度実績)	62.0% (R6年度) (R5年度実績)	63.9%以上 (R7年度) (R6年度実績)
<b>数値目標 4-2</b> 公的資金が投入されている公共交通の収支率（鉄軌道） <small>※鉄軌道（電鉄・市電）の収入額/支出額</small>	-	93.8% (R2年度) (R元年度実績)	77.4% (R5年度) (R4年度実績)	81.8% (R6年度) (R5年度実績)	93.8%以上 (R7年度) (R6年度実績)
利用者1人当たりの公的資金投入額の縮減					
<b>数値目標 5</b> 利用者1人当たりの公共交通への公的資金投入額 <small>※(バス(5社)、鉄軌道(電鉄・市電)、コミュニティ交通の公的資金投入額) / 年間利用者数 ※公的資金は、路面補修等設備投資、災害分（コロナ含む）を除く運行に関する補助 ※〔〕内は、公的資金にコロナと物価高騰による補助金を含めた場合の数値</small>	-	21円/人 (R2年度) (R元年度実績)	21円/人 〔39円/人〕 (R5年度) (R4年度実績)	30円/人 〔37円/人〕 (R6年度) (R5年度実績)	21円/人以下 (R7年度) (R6年度実績)